

花火ダイアリー



ぎふ長良川花火大会実行委員会事務局

森島 悠

花火満開まであと122日

こちらは「ぎふ長良川花火大会」実行委員会事務局の森島です。今月号より花火大会の状況や裏側等についてご紹介・ご案内していきます。よろしくお願いいたします。

初回となる今回は岐阜・長良川の花火大会の歴史と、昨年新たな形で再開した「ぎふ長良川花火大会」について取り上げようと思います。

長良川の花火大会は、終戦の翌年に岐阜の復興を願い打ち上げられたのがはじまりです。打ち上げ花火は多くの市民の心に希望を与えました。以来、毎年2回開催されていた長良川の花火大会は岐阜市民にとって大切な夏の風物詩となっていました。

昨年の第1回「ぎふ長良川花火大会」は、その流れを引き継ぐ形で、花火によって希望と笑顔をもたらすことを目指し、岐阜市、中日新聞社、岐阜新聞社、岐阜商工会議所が中心となった実行委員会により開催されました。

新しい花火大会では「応援席」という有料の観覧席を設けています。花火大会の有料化は近年全国的に広まっていますが、これは物価上昇に伴う煙火代（火薬代）や警備費、設営費の高騰により協賛金のみでは開催することが難しくなっていることに起因するところが多くなっています。県外でも全国612カ所の花火大会のうち約3割にあたる179カ所の花火大会が有料席を設けており（2023年「ぎふ長良川花火大会実行委員会」事務局調べ）、今後もその流れは拡大するのではないかと予想されます。

花火大会は古くから公共性が高く、地域社会に密接に結びついた行事です。しかしながらその有料化については様々な意見が多く上がっているのが現状です。

そこで、当花火大会では夜空に打上げられる花火自体はすべての方が楽しめるものだということを前提に、有料である「応援席」に来ていただけたお客様には更なる付加価値を提供できるような企画を進めています。

そのひとつが第1回の大会でも好評であった「音楽と花火」のコラボレーションです。応援席エリアに音響設備を設置し、音楽に合わせた花火を打ち上げることで新たな楽しみ方を演出しています。その他にも「応援席」でしか味わえない体験、快適性を追求していきます。今年の花火大会は「応援席」から観覧したいと思っていただけるよう、このコラムでも随時ご紹介していければと思っています。お楽しみに！